

令和3年度 自己評価報告書

令和4年3月
岐阜県立多治見看護専門学校

1 本校の概要・・・資料1

本校は、以下の教育理念の下、学生教育を実施している。

「生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。」

2 令和3年度 組織目標及び実績・・・資料2・3

(1) 優秀な学生の確保

- ・コロナ感染症蔓延のため、例年より規模を縮小または中止せざるを得なかったが、その時々で出来ることを検討し実施した。
- ・入学案内にイラストや写真を多く取り入れるなど、高校生が興味を持てるように一新した。
- ・直接の高校訪問は出来なかったため、今年度は東濃地域・中濃地域、12市町の27校に電話訪問を行い当校のPRをした。また、県内の高校81校に入学案内を郵送した。
- ・リモートでのオープンキャンパスを実施、参加者は延べ202名であった。
- ・1年生の母校訪問8校実施、高校や業者が主催する進学ガイダンスに11カ所参加した。
- ・学校のアピールをするために、ホームページの写真(行事・授業風景)を3か月に一度更新した。

(2) 教育環境の整備

・ICT教育に関する環境の整備

昨年度購入したタブレット48台、電子黒板(75型)1台、大型モニター(65型)2台を使用した授業を実施した。タブレットを使用した授業は年間28回実施。

県立の3学校(衛生専門学校、多治見看護専門学校、下呂看護専門学校)をTeamsで繋ぎ、看護管理の講義を実施した。

濃厚接触者などで自宅待機となった学生には、リモートで講義を聴講する体制を整えた。

タブレットの充電保管庫を2台整備した。

・その他の環境整備

県有施設の感染防止対策事業で要望し、長年の懸案であった教室の網戸の設置と、睦館トイレ・手洗い場の自動水栓化が実現した。

(3) 新カリキュラム改正に向けて変更承認申請

- ・カリキュラム検討会議を30回実施。
- ・令和3年10月末に新カリキュラム完成。申請書類を提出し、令和4年3月1日付で承認を得た。
- ・令和4年度入学生から新カリキュラムの運用開始。

(4) 教員の教育活動の充実、看護実践能力の維持・向上

- ・授業研究委員会を立ち上げ、主体性を促す授業・ICTを活用した授業を構築し教員の教育力向上に向けて取り組んだ。委員会を10回、授業参観・リフレクションを3回実施した。
- ・全教員が授業参観を実施した。
- ・キャリアラダーの継続。
- ・コロナ感染症蔓延のため、リモートによる学会・研修会に参加し、一人一回以上、伝達講習を実施。ICT教育のスキルアップのための研修会に参加後、全教員でタブレットを使用した勉強会を実施。
- ・短期研修は、実習病院の小児領域で1名実施。希望者もあるため、次年度も研修を計画する。
- ・新人教員にプリセプター教員を中心に計画的な支援を実施した。

3 学校評価項目の達成及び取り組み状況

1) 学校経営

資料 4

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長又は教務主任が部署をまとめ問題解決に当たっているか。 	4. 1

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・組織目標は職員会議で周知し、全職員で連携しながら問題解決にあたることができた。
- ・**学校評価**を9月と2月の2回実施した。評価結果は職員会議で周知し、中間評価結果は後期の学校運営に繋げ、2月の評価結果を次年度の学校運営目標に繋げた。また**学生の学校評価**、外部委員による学校関係者評価を実施し、職員会議で周知するとともに、その結果を学校運営計画に繋げた。
- ・学校評価結果はホームページで公表した。

2) 学科運営

資料 5～7

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時に持つべき資質をディプロマポリシー、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達目標を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画(シラバス)が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。 ・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員(実習指導教員)の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント・アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。 	3. 9

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・卒業生と卒業時の3年生に**カリキュラム評価**を実施し卒業時の到達目標の分析を行った。
- ・授業計画(シラバス)は、シラバス委員会が中心となり、毎年教育課程の評価を行い、学生・講師が授業内容を理解し、活用しやすいように修正している。
- ・新カリキュラムについては、カリキュラム検討委員会で検討を繰り返し、さらに担当領域の教員と共

に密に調整を図り、新シラバス、新実習要綱を完成させることができた。

- ・授業内容や方法については、科目終了後に学生による**授業評価**を実施し、その結果も踏まえた上で、教員は**総括**を実施している。総括をもとに教務会で検討し、次年度の授業内容や指導方法の改善に繋げている。
- ・学生が単位取得できるように、年度初めにはガイダンスで学年目標、一年間のスケジュールの確認をしている。
- ・濃厚接触者などで自宅待機となった学生には、リモートで講義を聴講する体制を整え、単位取得の支援を行っている。今年度のリモート講義は、66回延べ349人に実施した。一年生の原級留置学生3名に対しては、旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行認定会議を行い、次年度学生がスムーズに単位取得できるように支援した。
- ・科目の開始時には科目目標と内容、評価について説明をしている。また、講義で未修得単位のある学生については、随時、個別指導を実施し単位取得に向けた支援を行っている。実習で未修得単位のある学生については、実習予定の1か月前より事例に沿った、看護過程の展開や援助技術を実施させ、不足部分については指導を繰り返すなど、密に支援を実施している。
- ・主たる実習施設とは年間5回の**実習連絡会議**を計画したが、コロナ感染症蔓延のため、一堂に会しての会議の開催は2回しかできず、その他は書面報告とした。11月開催時には、新カリキュラムについて指導者に説明を行った。各病棟・部署とは担当教員が個別で調整を密に行っている。その他41か所の実習施設とは、実習開始前と終了後の2回調整会議を実施(一部リモートでも実施)し、実習指導者と連携をとっている。学生が効果的に学べるよう今後も調整していく。
- ・次年度の新カリキュラムに向けて、新規実習施設4か所(地域・在宅看護論実習Ⅰの3か所、精神看護学実習の1か所)に依頼し快諾いただき、実習内容等の調整をすることができた。
- ・修了認定のための評価基準と方法については、シラバス・実習要綱への記載や一部別紙での公表を行っている。
- ・実習時のインシデント・アクシデントは、まずは第一報をするために所定の様式を作成し使用したことで、迅速な報告・共有につながっている。また、インシデント学習会を年間2回開催し学生指導に活かすことができた。引き続き実施していく。

3) 入学・卒業対策

資料8～13

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・国家試験の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・卒業生の支援を行っているか。 ・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。 	3.8

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・優秀な人材確保に関する事業として、1年生の**母校訪問**(8校)、高校や業者が主催する**進学ガイダンス**の参加(11カ所)を実施し、当校の魅力を伝えた。コロナ感染症蔓延のため、直接の高校訪問は出来なかったため、全職員で、東濃地域・中濃地域、12市町の27校に電話訪問を行い当校のPRをした。また、県内の高校37校に入学案内を郵送した。
- ・オープンキャンパスはリモートで実施、進学ガイダンス50名、学校案内49名、模擬授業体験49名、先輩と語る会42名、進路相談12名、延べ202名の参加があった。
- ・3か月に一度ホームページの更新や、おりベネットワークによるオープンキャンパスについての配信

などを通して、当校のアピールを行った。

- ・以上の取り組みを行ったことで、前年度比 124%の受験者を確保することができた。
- ・**入学生にアンケート**を実施し、それらの情報を募集の方法等に活かすことができた。
- ・入学案内に、アドミッションポリシー(本校の求める学生像)を記載し、機会あるごとにアドミッションポリシーを説明することで、本校が求める入学生の確保に努めている。
- ・国家試験合格に向けて、3年生は全教員による少人数担当制の指導を実施し、学習面だけでなく精神面での支援を行っている。コロナ感染症対策として、国家試験3週間前より自宅研修としたため、毎日担任・副担任がリモートでの学習支援を行った。今年は受験間近に家族のコロナ感染症が判明し、濃厚接触者となる事例があり、対応に追われた。1名不合格となり、合格率は96%に留まった。
- ・入学時の学力の低下は著明のため、1年生から3年生までの担任・副担任で国家試験対策チームを作り、低学年時からの支援をしていく方法を意見交換しながら取り組んでいる。
- ・卒業生の**主な進路**は例年、県内の東濃及び中濃圏域の医療機関への就職が大部分を占め、とりわけ県立多治見病院への就職が、今年度は70%近くとなっている。
- ・卒業生の支援として、**卒業生交流会**(ホームカミングディ)を8月に実施。コロナ感染症蔓延で、リモートでの実施となったため、4名(12%)の参加に留まった。卒業生同士、また教員と語ることで、情報交換、リフレッシュの機会となるため、次年度は就職先にも更に働きかけ、参加者を増やしていきたい。今年度から開催のお知らせ方法を、書面からメールに変更したことで返信は増えたため、次年度も引き続きメールを活用していく。
- ・県内就業に関しては、進学ガイダンスなど入学希望者に説明をしている。入学時のガイダンス、個別の就業相談時にも指導・助言を行った。就職試験が早くなっているため、1年次から長期休暇にはインターシップへの参加を呼びかける計画であったが、今年度はコロナ感染症蔓延のため、参加に至らなかった。1月には4施設の卒業生を迎えて、1年生に対して、**先輩と語る会**を開催し、進路について具体的に考える機会とした。
- ・3年生の希望者には模擬面接を行い、採用面接者の意図を理解し、的確に対応できる能力を養うように努めた。

4) 学生生活への支援

資料 14～17

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。 	3. 6

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・**学生生活の実態**について調査を実施した。集計結果は学校評価委員会で共有し、結果を学生の生活・学習などの支援に活用している。また学生の意見で至急対応が必要なものについては、全職員で共有し改善に向けた取り組みをしている。
- ・担任・副担任を中心に学生面談・学生指導を行っている。また、実習に関しては実習調整者を中心に支援体制を整えている。必要時は保護者面談、保護者への電話連絡などで、学生の状況説明と支援要請を行った。
- ・学生の定期健康診断の結果を校医に報告し、要受診学生への指導と結果の把握に努めた。日々の学校生活では教員による学生の健康管理を行い、必要時は校医と連携し専門医への受診等を助言している。

- ・コロナ感染症対策として、学生、職員ともに1日4回の検温を実施し、毎朝健康観察シートと行動記録表を提出させチェックを行っている。コロナ感染症については、弟や妹の学校における感染で濃厚接触者となったり、家庭内感染などのケースも増えている。自宅待機となった場合は、担任・副担任が個別で一日2回の体調確認を行い、教職員で情報共有を行っている。判断に困るケースは、多治見病院の看護部を通して、感染管理ナースに相談し、学生や職員の行動を決定することで、安全確保に努めた。
- ・コロナワクチンは多治見病院で接種していただき、3回目の接種を済ませることができた。
- ・小児感染症の予防接種は、抗体価の結果に基づき、計画的に接種するよう指導した。例年は1年次にほぼ終了できているが、今年度はコロナワクチン接種も重なったため、やや遅れている学生もいる。
- ・**休学者・退学者**については、入学前に描いていた学校生活との違いや、実習の不合格などを理由に、進路に迷いを生じる学生がおり、1年生に多い傾向である。入学時から学生の状況には担任・副担任を中心に、全教員で気を配り、必要時は声掛けや面談を実施している。
- ・心の不安定な学生が増えており、月1~2回専門の**カウンセラーによる相談日**を設け、今年度は延べ6名の学生が利用した。相談室を利用せず、自己にてメンタルクリニック等を受診している学生も数名あり、状態の把握に努めている。
- ・経済的な問題を抱えている学生も一定数在籍していることから、日本学生支援機構等が運営する**奨学金**制度（給付・貸与）を積極的に紹介し、希望者に対しては申請書の作成支援や運営主体への推薦を行った。また国の高等教育修学支援制度に基づき、修学金の支援に加えて、7名に対して授業料や入学金の減免を行っている。更に今年度は日本学生支援機構による新型コロナウイルス感染症対策支援金事業(学生等の学びを継続するための緊急給付金)として、13名に100,000円の交付を行った。
- ・成績優秀者(8名)と皆勤者(4名)については、卒業時に**表彰**を行った。
- ・茶華道部とスポーツ部のサークル活動が現在は休止状態のため、コロナ終息後は学生の意向を確認しながら自発的な取組への支援をしていく。

5) 教職員の育成

資料 18~20

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・学会又は研修会に参加した成果を他の教員に還元する仕組みがあるか。 ・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。 ・教員の授業を他の教員が参観・講評できる体制を整えているか。 ・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか 	3. 5

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・職員会議を活用し、ハラスメント防止・セキュリティ対策などの職場内研修を行った。また**学会・研修に参加**した教員は、教務会で伝達講習を実施している。
- ・臨床実務研修については、コロナ感染症蔓延のため、小児領域1名の実施に留まった。次年度も計画していく。
- ・新人教員に対しては、プリセプター教員を決め計画的に支援を行った。評価を行い、教職員間で情報共有をしながら、全教員で育てていくよう支援をしている。
- ・**キャリアラダー**で、校長・教務主任と共に現在の立ち位置を9月と2月の年2回確認し、各自目標を明確にすることができた。
- ・今年度全教員が**授業参観**を実施、終了後リフレクションをすることで、授業内容や方法の改善に繋がった。また**授業研究委員会**を立ち上げ、委員会を10回、授業参観・リフレクションを3回実施。主体

性を促す授業・ICTを活用した授業を構築し教員の教育力向上に向けて取り組んだ。

6) 管理運営・財政

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・予算計画・年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。 ・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。 ・災害などの非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。 ・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。 	3.8

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・年間計画に基づき、計画的に予算・事業執行を行っている。
- ・学校が保有する個人情報については、「岐阜県情報セキュリティ対策基準」に従い管理している。
- ・個人情報保護は、学生へ繰り返しの指導を行うとともに、実習の記録やメモ帳の管理については、詳細なルールを決め、それに従い管理している。現在問題となっているソーシャルメディア利用の注意点については、学校生活案内に明記し、年度初めのガイダンス、各実習前のオリエンテーション、解剖見学前のオリエンテーションなど、機会あるごとに指導を行っている。次年度はさらに各実習前に個人情報保護、医療安全の意識を高める取り組みを計画していく。
- ・学生の防災意識を高めるよう、年度初めに防災訓練・防災に関する講話を計画したが、コロナ感染症蔓延のため、全校一斉で避難訓練を実施することができなかった。1年生のみ避難訓練を実施、他学年はシェイクアウト訓練、メールによる安否確認訓練を行った。また全学年リモートで消防士の講話を聴いた。教員に向けての防災マニュアル作成に至っていないため、次年度の課題とする。
- ・学生へのメールの一斉送信や個別の送受信の仕組みを整備することができたことで、コロナ禍でもスムーズに学生に情報伝達をすることができた。
- ・学生の意見・要望を聞くために提案箱の設置をしている。また、入学時アンケートの実施、さらに学生生活実態調査、学生による学校評価を実施した。学生の意見・要望については運営会議、学校評価委員会において対応を検討し、速やかに対応した。今年度は学生の要望から網戸を設置した。

7) 施設設備

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障がい者の利用に配慮された構造になっているか。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。 	3.0

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・耐震基準は満たしているが、障がい者の利用ができるようにはなっていない。トイレは数が少ない上に洋式便器は各階1か所しかないことで、学生からの改善要望も多い。トイレ改修工事の希望を続けているが実現できていない。引き続き機会あるごとに要望をしていく。

- ・今年度は衛生専門学校・下呂看護専門学校と Teams で繋ぎ、看護管理の講義を実施することができた。昨年度購入したタブレット 48 台、電子黒板(75 型)1 台、大型モニター(65 型) 2 台を使用した授業を実施した。タブレットを使用した授業は 1 年間で 28 回実施できた。さらにタブレットの充電保管庫 2 台を整備することができた。
- ・設備については、コロナ対策の換気で窓を開けることが増える中、教室の窓に網戸がついておらず、授業中に虫が入り授業が中断するなど不都合があり、学生からの改善要望も多かったため、県有施設の感染防止対策事業で要望した。長年の懸案であった教室の網戸の設置と、睦館トイレ・手洗い場の自動水栓化が実現した。
- ・教育目標達成に必要な備品の購入については、毎年計画的に実施してはいるが、多くの備品が老朽化や陳腐化が目立つなど、今の医療が学べる備品の整備が課題である。今年度は洗髪車が故障し、演習の実施が危ぶまれたが急遽購入することができた。
- ・コロナ禍でも、学生の学習環境が確保できるよう、多目的ホールや図書室については、椅子の数を半分に減らし開放している。昨年度から図書購入費を倍にして、さらに新刊コーナーを開設し見やすい工夫を行っている。しかし図書室の蔵書が少ない、内容が古く必要とする物がなかなか無いという学生からの意見も引き続きある。昨年度から隣の県立多治見病院の職員図書館が学生・職員も利用できるよう許可をいただけたが、ほとんど利用できていないため、機会あるごとに利用を勧めていく。

8) 社会貢献、地域活動

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。 	3. 1

評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分 1

- ・ホームページ委員により、3 か月に一度、行事や授業風景の写真を更新し、自校のアピールを行った。さらに見やすい、興味が持てるようなホームページの充実に向けて検討していきたい。
- ・オープンキャンパス時に、おりベネットワークによる取材があり、当校のアピールに繋がった。
- ・地域活動としては、毎年学生会主体の清掃ボランティアや、実習施設での夏祭りのボランティアなどに参加していたが、昨年度に引き続きコロナ感染症蔓延のため実施できていない。毎年教員が行っていた、近隣中学での職業講話も、コロナの為中止となった。
- ・今年度も学校祭は中止となった。

4 総合的な評価

本年度に定めた組織目標は、本報告書に記載したとおり概ね実施できており、目標達成できていると評価する。また、評価項目の達成及び取り組み状況は、コロナ感染症蔓延のため、実施できなかったことも多い中で、できる方法を模索しながら実施したことで、昨年度より 5 カテゴリーは評点がアップした。また平均評点も昨年度同様であったことから、適切に実施していると評価する。

— 以 上 —